

平成22年 3月 31日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19520319

研究課題名（和文） 申報掲載文明戯劇評の研究

研究課題名（英文） An Investigation of Shenbao Newspaper Drama Review of Wenmingxi

研究代表者 瀬戸 宏（SETO HIROSHI） 摂南大学外国語学部教授

研究者番号 80187864

研究成果の概要（和文）：

1. 文明戯は辛亥革命前後に上海を中心に栄えた演劇である。1913年から15年にかけて上海の新聞『申報』に掲載された文明戯の劇評等100編を整理し、瀬戸宏の個人サイト上で公表した。
2. 文明戯の研究をおこなった。研究内容は、文明戯と映画の関係、文明戯と伝統演劇の関係、文明戯と中華人民共和国建国後の通俗話劇との関係、文明戯が描いた朝鮮の形象、文明戯の重要演目であるシェイクスピア作品の受容史などである。

研究成果の概要（英文）：

1. Wenmingxi is a drama that prospered in Shanghai around Shinhai Revolution . A Shanghai newspaper, Shenbao, carried drama reviews of Wenmingxi from 1913 to 1915 .These drama reviews were divided into 100 parts and published on a personal site of Hiroshi Seto.
2. Our group studied the content of Wenmingxi. In relation to: the movie with the same title, traditional Chinese drama, relations ,popularity spoken drama, the Korean figure which in drew upon, and its history connection to the works of Shakespeare .

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成19年度	1,200,000円	360,000円	1,560,000円
平成20年度	900,000円	270,000円	1,170,000円
平成21年度	1,300,000円	390,000円	1,690,000円
年度			
年度			
総計	3,400,000円	1,020,000円	4,420,000円

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：分科：文学 細目：各国文学・文学論

キーワード：文明戯、申報、中国早期話劇、劇評、清末民初新潮演劇

1. 研究開始当初の背景

文明戯とは、二十世紀初年代および十年代（清末民初）の上海を中心に存在した演劇である。中国伝統演劇（戯曲）と西洋近代劇の影響を受け二十世紀二十年代に中国で確立した話劇の中間的な形態で、早期話劇とも呼ばれる。文明戯が話劇の成立に重要な役割を果たしたことは以前から知られていたが、近年研究の進展により二十世紀における中国伝統演劇の変質・発展にも大きな影響を与えたことが明らかにされつつある。

研究代表者の瀬戸宏は、1978年に早稲田大学に提出した修士論文「中国近代劇の誕生」以来、文明戯を重要な研究対象としてきた。2003年には文明戯など中国話劇成立史に関するこれまでの研究成果を整理し学位請求論文「中国話劇成立史研究」として早稲田大学に提出し、博士（文学）の学位を得た。2005年には博士論文を基礎にそれを全面的に改訂し、同名の著書『中国話劇成立史研究』（東方書店2005.2）として刊行した。同書は、清末民初の中国伝統演劇の近代的変質開始から始まり、文明戯を経て話劇が成立する過程を一定の体系性をもって分析したもので、2006年に第三十八回日本演劇学会河竹賞を受賞するなど、研究界から高い評価を受けた。しかし瀬戸が同書で記したように、その研究はまだ初歩的なものに過ぎず、解明を要する問題は数多い。

研究の過程で、瀬戸は上海で発行されていた新聞『申報』に1913年から1915年にかけての時期すなわち文明戯の最盛期に文明戯に関する劇評が多数掲載されていることを発見した。そのリストは『中国話劇成立史研究』巻末の「付属論

文・資料」に「『申報』掲載文明戯劇評目録」として収録してあるが、その量は約百編におよぶ。この劇評は、瀬戸が『中国話劇成立史研究』をまとめるにあたって重要な資料となったが、その量的多さのゆえにそれに対して全面的な研究を行えたとは言い難かった。

『中国話劇成立史研究』は、同書あとがきに記したように「（瀬戸宏）の中国演劇研究の一定の到達点ではあるが、その終点ではない。」同書刊行後も瀬戸宏は文明戯を中心とした中国話劇成立史研究に従事しているが、今後文明戯研究をより深化させるためには『申報』掲載文明戯劇評の全面的研究が不可欠であること、そのためにはまずその資料的整理が必要であることに思い至った。

2. 研究の目的

『申報』掲載文明戯劇評それ自体は上海書店刊行の影印本で比較的容易にみることができ、民国初の刊行物のため句読点もなく、また影印本のため文字も小さく必ずしも利用しやすい形態ではない。本研究では、『申報』掲載文明戯劇評の全貌を明らかにするために、劇評を復刻し句読点をつけた資料集として刊行することを主目的とする。『申報』にはやはり大量の京劇劇評があり、これは《上海京劇志》編集部主編『〈申報〉京劇資料輯選』（1994内部発行）として刊行されているが、この劇評集には文明戯劇評は収録されていない。中国の文明戯研究状況からみて、中国で文明戯劇評集が刊行される見通しはない。そのため本研究完成によってのみ、一般研究者は容易に最盛期の文明戯劇評に

触れることができることになる。これまで文明戯研究は欧陽予倩の回想録など限られた資料に基づき研究が為されてきたが、近年の研究の進展により新たな資料発掘・整備も進んでいる。研究代表者の瀬戸宏はかつて春柳社、新民社、民鳴社の上演演目を整理してその一覧を刊行し各劇団の上演活動について定説を覆す発見をいくつもおこない、演目集自体も高い評価を受けたが、今回の文明戯劇評の整理・刊行は具体的な上演演目の内容に関するものだけに、文明戯研究をより深め、二十世紀中国演劇研究をより高い段階に飛躍させるものとなるのが強く期待できる。

3. 研究の方法

まず『申報』掲載文明戯劇評を電子化する。劇評は約百編に達する。このように大量の文書を研究代表者、研究分担者などが直接パソコンに入力するのは無駄が多いので、中国語入力業者に入力させる。

次に電子化された劇評の校正をおこない句読点を附す。さらに整理した劇評を、適当な方法で公表する。

以上と平行して、文明戯および関連する分野について個別研究も進める。

研究にあたっては、文明戯および関連分野についての研究蓄積のある飯塚容、田村容子が研究分担者として瀬戸宏に協力する。また顧文勳氏（南京大学）ら中国の研究者にも協力を仰ぐ。

4. 研究成果

(1) 共同研究

① 申報掲載の文明戯劇評（一部、文明戯関連の報道なども含む）100編の整理を終え、「申報掲載文明戯劇評（試行版）」をまとめ、研究代表者・瀬戸宏の個人サイト

「電腦龍の会」でPDFファイルの形式で公表することができた。文明戯劇評をまとめた形で整理・公表したのは今回が世界最初であり、今後大きな反響を呼ぶことと思われる。ただし、判別不能の文字がまだかなり存在するなど不十分点も多いので、今後も機会をみて改訂を続け、改訂版を随時作成して差し替えていく。

② 2007年12月2日に、顧文勳氏（南京大学）、曹路生氏（上海戯劇学院）を中国から招き、2007年文明戯研究会を摂南大学地域連携センターで開催した。これは、研究代表者の瀬戸宏が企画し、研究分担者の飯塚容、田村容子が協力した。その内容は以下の通りである。

陳凌虹（総合研究大学院大学研究生）

劇本《不如帰》与《家庭恩怨記》—論其情節劇性格

コメント 三須祐介（広島経済大学）

顧文勳（南京大学）

新劇戯単過眼録

コメント 飯塚容（中央大学、研究分担者）

曹路生（上海戯劇学院）

談話劇《弘一法師》創作経験

コメント 田村容子（早大演劇博物館、研究分担者）

司会 瀬戸宏（摂南大学、研究代表者）

使用言語は中国語で、研究会には十数名の参加者があり、活発な討論がおこなわれた。それと関連して、文明戯の実体についてもより深く明らかにすることが出来た。陳凌虹、顧文勳両氏の報告は、後に《戯劇芸術》2008年4期に掲載されるなど国際的な反響を引き起こすことができた研究会であった。

③ 飯塚容、瀬戸宏、藤野真子、松浦恒雄、三須祐介、中山文、田村容子「座談会・中国演劇研究をめぐって—中国演劇の“現代化”を中心に」（未名 26号 2008）に参加した。この座談会は、研究分担者の田村容子が企画し、研究代表者の瀬戸宏、研究分担者の飯塚容が協力した。座談会記録は80ページにおよぶ長文のもので、第一部「中国演劇の“現代化”について」、第二部「文明戯研究」、第三部「中国同時代演劇の動向について」に分かれるが、特

に第二部で中国と日本の文明戯研究の歴史と現状、その問題点について広範な討議がなされた。特に、文明戯と早期話劇の関係、春柳社の位置、通俗話劇と文明戯などが検討された。この座談会は、文明戯研究についての中国・日本を通じての最も全面的な総括であり、今後の研究に資するところは大きい。

(2) 個別研究

共同研究と平行して、文明戯および関連する分野に関する個別研究もおこない、文明戯研究をさらに深めることができた。その成果は研究代表者、分担者の個人論文・学会報告のかたちで発表された。その主な内容は次の通りである。各項目最後の()は個別論文・報告の著者・報告者である。

①林纾のシェイクスピア観について研究した。林纾が翻訳した『吟辺燕語』は、ラム『シェイクスピア物語』の中国語訳で、その脚色は文明戯の重要な演目になっている。林纾は後に『リチャード二世』などの歴史劇も翻訳したが、それらは小説体になっており、林纾は戯曲を小説化して翻訳したという通説が流布してきた。近年、林纾はすでに小説化されたものを翻訳したことが日本の研究者によって明らかにされた。瀬戸は林纾の翻訳やシェイクスピア観を検討し、林纾は中国伝統文化風土の影響を受け小説と戯曲の違いが理解できず小説体の訳にシェイクスピア原作とのみ記し小説化した者の名を附さなかったため通説が形成されたこと、通説形成の基本的な原因は林纾自身にあること、それは中国の文化風土と直接の関係があり、必ずしも林纾個人の問題とは言えないことを明らかにした。(瀬戸宏)

②文明戯の中の朝鮮韓国を描いた演目について研究した。この演目は進化団・民鳴社『安重根刺伊藤』、春柳社『高麗閔妃』である。進化団『安重根刺伊藤』は以前から知られていたが、民鳴社『安重根刺伊藤』、春柳社『高麗閔妃』はこれまでほとんど紹介されることがなかった。この研究では、まず新聞広告などを用いてこの二つの演目が確かに存在したことを明らかにし、続いて二つの演目は、民鳴社、春柳社の基本的上演傾向とは異なった内容であること、この二つはいずれも1915年に上演されその背景には日本の中国に対するいわゆる「二一箇条要求」とそれに対する中国世論の反発があること、などを明らかにし

た。この研究は、韓国発行の学術誌『韓中言語文化研究』に掲載されるなど、国際的反響を呼んだ。(瀬戸宏)

③1957年上演の通俗話劇『光緒与珍妃』について研究した。『光緒与珍妃』は民鳴社が1914年10月に初演し1915年9月には八日連続上演の長編連台本戯に成長した『西太后』の一部が1957年まで伝わったものであることを明らかにした。また、文明戯は衰退したといわれた1920年代中期以降も存在し続け、1957年の通俗話劇は文明戯の直接の流れを引く演劇形態であること、文明戯は二十世紀初頭から二十世紀六十年代まで上海を中心に一貫して存在し続けた一つの演劇体系であることを明らかにした。(瀬戸宏)

④春柳社の演目『姉妹花』について研究した。春柳社『姉妹花』と、バーサー・M・クレイ (Bertha M Clay) 『ドラ・ソーン』 (Dora Thorne)、末松謙澄訳『谷間の姫百合』、菊池幽芳の翻案小説『乳姉妹』、日本新派『乳姉妹』、後の笑舞台『乳姉妹』の関係を考察し、春柳社『姉妹花』は春柳社リーダーの陸鏡若が日本から持ち帰った菊池幽芳『乳姉妹』に基づいていると思われることを明らかにした。(飯塚容)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

①瀬戸宏「文明戯中の韓国形象—以進化団、民鳴社《安重根刺伊藤》与春柳社《高麗閔妃》為主」 韓中言語文化研究 第21集 2009 p171-p186 査読有り

②瀬戸宏「林纾のシェイクスピア観」 演劇映像学2008第一集 2009 p461-p476 査読無し

③飯塚容、瀬戸宏、藤野真子、松浦恒雄、三須祐介、中山文、田村容子「中国演劇研究をめぐって—中国演劇の“現代化”を中心に」 未名 26号 2008 p71-p150 査読無し

④飯塚容「另一種《姉妹花》」中国話劇研究11号 2007 p7-p21 査読無し

〔学会発表〕（計4件）

①瀬戸宏 論通俗話劇《光緒与珍妃》—兼
談文明戲是否一個戲劇体系 清末民初新潮
演劇国際学術研討会 2009.12.26 中国・華
南師範大学

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

電腦龍の会（研究代表者瀬戸宏の個人研究
サイト）

http://www.asahi-net.or.jp/~ir8h-st/ryuunokai_001.htm

6. 研究組織

(1) 研究代表者

瀬戸 宏 (SETO HIROSHI)

摂南大学外国語学部教授

研究者番号：80187864

(2) 研究分担者

飯塚 容 (IIZUKA YUTORI)

中央大学文学部教授

研究者番号：60151239

田村 容子 (TAMURA YOKO)

福井大学教育地域科学部講師

研究者番号：10434359

(3) 連携研究者

なし

()

研究者番号：

